

## 中国貴州省における少数民族の穿闘式木造民家の建設に関する研究：黔東南ミャオ族トン族自治州公納村を対象として

著者	李 雪
著者別名	LI XUE
発行年	2018
学位授与大学	筑波大学 (University of Tsukuba)
学位授与年度	2017
報告番号	12102乙第2872号
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2241/00152821">http://hdl.handle.net/2241/00152821</a>

氏 名 李 雪  
学位の種類 博士（学術）  
学位記番号 博乙第 2872 号  
学位授与年月 平成 30年 3月 23日  
学位授与の要件 学位規則第4条第2項該当  
審査研究科 人間総合科学研究科  
学位論文題目

（和文）中国貴州省における少数民族の穿闘式木造民家の建設に関する研究  
—黔東南ミャオ族トン族自治州公納村を対象として—

（英文）THE CONSTRUCTION OF GHUANDOU-SYSTEM WOODEN HOUSES  
IN MINORITY NATIONALITY REGIONS IN GUIZHOU PROVINCE OF  
CHINA -Case study on Gongna Village, Miao-Dong Autonomous Prefecture  
of Qiandongnan-

主	査	筑波大学教授	博士（農学）	黒田 乃生
副	査	筑波大学教授	博士（文学）	八木 春生
副	査	筑波大学助教	博士（デザイン学）	佐藤 布武
副	査	筑波大学教授	博士（工学）	藤川 昌樹
副	査	主宰（一級建築士事務所 株式会社 里山建築研究所） 筑波大学名誉教授	工学博士	安藤 邦廣

## 論文の内容の要旨

李雪氏の博士学位論文は、貴州省における穿闘式木造民家の現状と建設工程を詳細に明らかにし、生活の近代化の影響を考察し、今後の技術の継承について提言したものである。その要旨は以下のとおりである。

### （目的）

中国では新農村建設の奨励など農村の生活改善の政策が進む一方、伝統的な建築技術を無形遺産として継承する動きも見られる。このような背景から著者は中国貴州省における少数民族の穿闘式木造民家の現状を明らかにし、建設に関わる植物資源、生産組織及び木工技術の関係と必然性を考察し、地域性を持つ建設活動を再評価することを目的として研究を行っている。

## (対象と方法)

著者は中国貴州省黔東南ミャオ族トン族自治州ミャオ族の穿闘式木造民家を研究対象としている。トン族、ミャオ族の集落を対象とした予備調査の結果、調査可能な期間に最も多くの木造民家が伝統的な手法で新築されていた公納村を対象としている。また、事例として木材の伐採から上棟まで全ての建設工程を調査可能なG家を対象としている。研究方法は2013年から2015年にかけて現地調査を実施しており、村のすべての木造民家の間取りおよび外観調査、事例であるG家の建設の調査および大工や施主など関係者への聞き取り調査を行っている。第2章では村全体の家屋調査から穿闘式木造民家の様式、間取り、仕口構法を整理し、時代による変化を明らかにしている。第3章ではG家を事例に建設工程の各プロセスの仕事分担と賃金の関係を整理し、現在の木造民家建設の生産組織を明らかにしている。第4章では地域の植物資源を用いた木工技術を、第5章では特徴的な設計手法と部材の加工を明らかにしている。最後に2章から5章の結果をふまえて、農村生活の近代化による穿闘式木造民家の建設技術と生産組織の変遷から今後の望ましい方向性について考察している。

## (結果)

第2章では著者は107棟の家屋の間取りと外観から変遷を明らかにした。ここでは「高床式」から「半高床式」、「完全な二階建て」に変化したことを指摘している。従来は2階にイロリと生活スペースがあり1階は家畜や農作業などの生産の場であったが、イロリは火炉に変わり生活スペースが1階にある家屋が増加した。著者は政府による屋内でのイロリの禁止と家畜を分離する政策によってこれらの変化が起こったことを指摘している。

第3章では著者は木材の伐採から棟上げまでの建設工程とそれに関わる組織を明らかにしている。部材の加工や製材など技術が必要な工程は専門家が有償で行い、そのほかは親戚や村民の共同作業で実施している。電動工具などの導入で工期が短縮されたが大きな作業の内容と生産組織には変化がないことを明らかにしている。

第4章では穿闘式木造民家の特徴である枋に着目し、枋材の加工、接合部の詳細から、共同作業による組み立てを効率よく進めるために接合点が少なく簡素な構法が生み出されたことを指摘している。

第5章では竹尺を用いた大工による設計手法と木材の加工技術を明らかにしている。著者は設計と加工が同時に進む特徴的な手法は、墨付大工が設計し加工大工が加工し、村民が材を組み合わせるといった建設方法に適した手法であり、かつ木材を最大限有効に使う工夫があることを指摘している。

## (考察)

著者は、近代化に伴って間取りや工期の変化が見られたことを明らかにし、その一方で建設に重要な工程では村民の共同作業が継承されており、その理由として限られた資源を生かして工程にあわせた構法や加工技術が発達したためであると考察している。さらに、こうした事実を踏まえて生活にあわせて間取りは柔軟な変化を容認しつつ共同作業などの生産組織と設計加工の技術の継承が必要であると提言している。

## 審査の結果の要旨

### (批評)

本研究は事例調査であり、木造民家の建設を事例から普遍的な理論に展開する視点がやや欠けている。しかし、詳細な現地調査から中国における木造民家の技術や構法の現状を丁寧に明らかにしており、変化が著しい中国における民家建設を調査し詳細なデータを分析した資料的価値は高いと評価できる。さらに、これまでは断片的にしか把握されていなかった穿闘式木造民家の構法、担い手、材料を結びつけて合理的に進化したとする考察は今後の民家研究の視座としても高く評価できる。

平成 30 年 2 月 5 日、学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもと論文について説明を求め、関連事項について質疑応答を行った。その結果、審査委員全員が合格と判定した。

なお、学力の確認は、人間総合科学研究科学学位論文審査等実施細則第 11 条を適用し免除とした。

よって、著者は博士（ 学術 ） の学位を受けるのに十分な資格を有するものと認める。